



在京古高同窓会会報 第33号

〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9-707 佐藤清勝税理士事務所内 在京古高同窓会事務局
TEL (03) 5818-2674 FAX (03) 5818-2674 URL http://www1.ttcn.ne.jp/~furuko Email zaikyoo-furuko@mx5.ttcn.ne.jp 発行責任: 曾根 研一 編集長: 亀井 明 印刷: (株)ケーヨー

五十五年ぶりの卒業式に臨んで

会長 三浦 澄能



三月一日、母校の卒業式に在京同窓会を代表して臨席しました。

私にとっては新制高校第一回生として卒業して以来、実に五十五年ぶりのことです。以下はその時の様子と感想です。

一学年・二学年の生徒、父母の方々と共に来賓・教職員が着席して待ち受ける体育館の式場に、卒業生六組計二〇〇余名が肅々と入場してきました。

ここで、私は思わず目を凝らしました。全員の九割が、バリッとした背広にネクタイ。まるで大手企業の入社式かと思まがうほどのカッコよさである。残りの一割ほどが、これまた羽織袴の正装姿に納まっている。派手な色合いも目についたがどうということもない。ざわつきもなく整然と式次第が進行し、卒業証書交付の名前の読み上げが始まった。

いきなり一番目の生徒が、足下に置いていた兜のレプリカを高々と持

ち上げ「吾人は〇〇の首級を討ち取ったり」と大きな声を張り上げた。

確かにそう聞こえた。周囲の来賓席も、「えっ」と驚き。これから何が始まるのかと、先行きを気にする中、次々と生徒たちが思い思いの一言を

発しては立ちあがって行く。全くの予想外。これが現代っ子のパフォーマンスというのか。

次いで、各クラス代表が壇上に上がり校長先生から全員の卒業証書を押し頂いたあと、降壇する前に会場に向かって堂々とスピーチをし、校長先生と抱擁したりなどは、むしろほほ笑ましい風景でさえあった。

卒業生たちは学びの舎から飛び立つにあたり、自己主張のひとときとばかり、自覚と喜びを精一杯表現したものであろう。それでいて彼らが最後まで自己抑制を忘れないところに、むしろ爽やかさを覚えた。

二宮校長先生のご挨拶は「生き甲斐と能力への挑戦」について諄々と説く格調高いものであったが、彼らはしわぶき一つ立てず聞き入っていたのも実に印象的であった。

これまで、同窓の集まりなどで往々母校の教育事情の危機が話題になり、「大崎大学」を自負する伝統の行く末について憂え合う時期もあつた。しかし、今回の卒業式に臨んで、また先生方のお話を承

つてみると、それはもはや杞憂に過ぎなくなつたかと安堵感を持つた次第である。そして、時代が大

きく変わって行く中で校長先生や諸先生方のご努力が、学業にも運動にも、また生徒会活動にも、明らかに向上している成果の一端を知ることができた。

私は、卒業生諸君に饒の言葉として、「新たな進路に向かって、夢は大きく、目標は高く持つべし。大きく高いほどその達成には全力を出さねばならない。そのなかでこそ悔いのない生き方を手に入れることができる」、「同窓会に接して先輩の経験、情報、人脈を活用することを奨める」という趣旨のことを述べた。

在京同窓会メモ

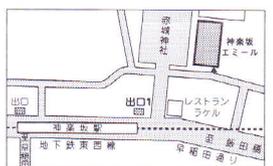
・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。会の健全運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。
・次回会報第34号は2005年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

お知らせ

平成16年度 在京古高同窓会定時総会・懇親会

【日時】平成16年6月27日(日) 11:30~15:30
【会場】神楽坂「エミール」
【会費】8,000円
【講演講師】斎藤 馨氏(昭和24年卒)
【演題】「故・本田宗一郎氏の遺伝子」

【交通案内】地下鉄東西線 神楽坂駅 徒歩2分(神楽坂方面出口) 地下鉄有楽町線 飯田橋駅 徒歩13分 JR中央線 飯田橋駅 徒歩13分



神楽坂 財団法人 東京都福利厚生事業団 〒162 東京都新宿区赤城元町1-3-0817 TEL 03-3260-3251 エミール

古高に着任して

古川高等学校校長 鈴木 克之



新緑が眩しく映える向暑の候、在京同窓会の皆さまには、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃、母校への暖かいご支援ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

この度の人事異動により、二宮景喜校長の後任として着任しました鈴木克之と申します。前校長同様、よろしくお願い申し上げます。

着任して早や二ヶ月が経ち、校舎・体育館に掲げられた蛍雪章、玄関正面に立て掛けてある風雪に耐えた校名板、校長室の大先輩がしたためた書など、旧制中学から脈々と続く本校の重厚さを強く感じております。県北屈指の伝統校古高を預かる責務の大きさを自覚し、精一杯頑張ります。

学校では、四月の応援練習、定期戦、五月の地区総体を終え、六月の県総体に向けて各部の練習に

熱が入っています。伝統の部活動は今年も健在です。応援練習では、団長の野太い号令のもと、校歌、図南歌、凱歌を腹の底から歌い、体育館には、新入生二百四十名、古高最後の猛者たちの雄叫びがこだましました。

進路面では、今春の大学入試で、国公立大学に現役四十六名、現浪合わせて六十四名が合格しました。ここ数年、合格者が着実に増加し、確かな「復活」への道筋が見えてきました。危機感をバネに、学校一丸となつての取り組みが功を奏しつつあると認識しております。現在、県からの「みやぎ高校いきいき夢プラン(チャレンジ・ハイスクール)事業」及び「進学指導充実支援事業」指定を受け、進路実績の向上、公立高校の復権を掲げ、総力を挙げて一大改革を進めております。

私としましては、本校への地域からの期待の大きさを重く受け止め、不退転の決意で取り組む覚悟です。男女共学化につきましては、現在、その準備が急ピッチで進められております。時代の流れとはいえ、同窓生とりわけ故郷を離れておられる同窓生の皆さまには、そのご心情的のびないものと察しております。共学校になりましたも、本校のよき校風である「質実剛健」「学問尊重」「自主自立」の精神は、未来永劫不滅です。蛍雪章にこめられた思いも、「文武両道」を奨励すること、何ら変わるものではありません。

今後とも、諸先輩のご指導を仰ぎながら、地域の拠点校、進学校としての更なる発展を目指して鋭意努力いたします。何卒、これまで同様、変らないご支援・ご協力をお願い申し上げます。

母校の今

古高同窓会の近況



古高同窓会会長 野村 喜太郎

この度の前同窓会長高橋淳夫氏のご逝去に對し、謹んでお悔やみ申し上げます。

去る四月二十八日夕方、春田副会長さんよりお電話とファックスを頂き、突然の訃報に驚きました。告別式には参列できず残念でしたが、五月一日の夜、喪主の奥様よりご丁寧なお電話を頂き、只々恐縮いたしました。在京同窓会の運営並びに古高同窓会にご支援いただきましたご努力に感謝し、在りし日を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

さて平成十六年春の叙勲で県内では四名の同窓会員が受章されました。中四十五回卒前古川教育長の伊藤行雄氏、中四十六回卒元小野田町長の古内栄輝氏、中四十八回卒元調停委員、現古高同窓会副会長の高橋亨氏、高三回卒元仙台北税務署長の佐川剛氏が各々受章されました。同窓会として心から祝意を表し、益々のご健祥をお祈りいたします。

三月二十一日投票が行われた古川市長選で、現市長佐々木謙次氏(高九回卒)が再選されました。一市六町の合併を来年に控え、最後の古川市長として、又広域の新しい市政にも活躍いただける様期待致しております。祖父の佐々木稜治氏(中二回卒)が初代の古川市長さんであり歴史の流れの中での因縁を感じる次第です。

築館女子校と統合しますので、最後の定期戦でお互い全てを出し切って激突しようです。六勝三敗で古高が三年連続優勝で最終章を飾りました。四十五回続いた伝統の定期戦で、通算成績古高の三十一勝十一敗三引き分けの由、来年からお互い男女共学になりますので、新たな定期戦が期待されます。

これから同窓会の予定を述べてみますと、五月二十八日に第一回役員会で総会について協議、同日同窓会の事業である奨学生各学年一名ずつに奨学金を交付いたします。財団法人古高育英会に就いては六月二日に理事会を開き、少ない財源ですので今後の運営に就いて協議致します。

同窓会の近況並びに予定等述べて参りましたが、最後に三浦会長さん始め皆様のご健祥と在京古高同窓会の益々のご発展を祈念し、挨拶と致します。

さて恒例の築館高校との定期戦は、お互いに男子校としては最後になるので、事前の意気込みも中々のものが何えました。古高側は、両校の校章を半分ずつ合体させたロゴを胸に、野村同窓会会長の挨拶の最後の定番「古高生ががんばるぞ」を背中にプリントしたTシャツを用意して参加しました。前日からの雨の影響で残念ながら野球、綱引きは中止となり9種目の戦いとなりました。開始早々柔道、剣道、バスケットと敗退し、どうなることかと大いに心配しました。サッカーも前半0対2と負け越し、さらに後半で1点追加されたものの最後まで粘る古高生は延長戦に持ち込み、4対3で勝利しました。この勢いに乗り、結局、総合成績6勝3敗で古川高校が有終の美を飾ることが出来ました。昭和三十一年の第一回から今回までの通算成績は三十一勝十一敗三

本部同窓会事務局だより



事務局 清野 千秋

東北地方も薫風の季節を迎え、青葉が目にしみる毎日となりました。在京古高同窓会の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

最近の古高の様子につきまして述べさせていただきます。今年度は校長、教頭、副校長の三役がすべ

て変わり、新体制で更なる飛躍に向けて出発しました。

平成十五年進学状況ですが、例年にならない良い結果を出すことが出来ました。(詳細は別表をご覧ください)これは来年度から始まる男女共学化を控え、進学実績をあげ、地域や同窓会の皆様の期待に応え、更に魅力ある学校にしたいという願いが結実したのと思います。これを後押しするものに、みやぎ高校いきいき夢プラン事業と進学指導充実支援事業という二件の事業が県から指定されております。前者では数値目標を掲げた計画となっており、しかし本校の進学指導は、ただ単に合格率向上を狙うのではなく、進学してから何をしたいのかという「生き方あり方指導」に重点をおく面談、模試結果分析等を通じて、これらを考えさせております。

引き分けとなりました。男女共学化への最後の準備年度となりました。校内では委員会を設け、各職務分掌を核として着々と進んでおります。設備面では更衣室やトイレの新設改修を行い、ソフト面では部活構成や校訓教育目標の見直し、服装関係、制服関係などいろいろな検討を進めております。ハードの部分は要望項目がいろいろありましたが県の財政難など中々厳しい状況の様です。貴会から例年贈られる東京賞雪賞を受賞した三名はともに大学進学を果たし、元気ががんばっております。特に今回は一名増員していただき誠にありがとうございました。過日発表されました宮城県在住の春の叙勲者で判明した方々は次の四名です。

平成15年度 進路状況

(現役内数) 過卒者数は判明した分、私立は延べ人数です

国立大学		公立大学		公立・私立大	
大学名	人数	大学名	人数	宮城農業	人数
北海道	1 (1)	駒沢	1 (1)	市立名	1 (1)
弘前	4 (4)	金沢	1 (1)	会津	1 (1)
岩手	7 (4)	徳州	1 (1)	山形	1 (1)
東北	8 (5)	和歌山	1 (1)	専修北海道	1 (1)
宮城教育	5 (3)			専門学校	(17)
山形	8 (6)				
福島	4 (3)				
宇都宮	2 (2)				
埼玉	4 (2)				
千葉	2 (2)				
東京学芸	1 (1)				
横浜国立	1				
合計	51	合計	13	職	(6)
				民間、他	(4)

私立大学		私立大学		私立大学	
大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
石巻専修	8 (8)	駒沢	1 (1)	明治学院	1
東北学院	119 (95)	芝浦工業	1 (1)	東横工業	1 (1)
東北工業	26 (26)	成城	3 (2)	立教	2 (1)
東北生活文化	1 (1)	上野	1	早稲田	1
東北福祉	3 (3)	専修	5 (5)	神奈川	3 (3)
東北文化学園	3 (3)	中央	5 (4)	同志社	4 (3)
東北薬科	1	東京農業	1 (1)	立命館	5 (3)
仙台	1 (1)	東京理科	3 (2)	関西	3
文教	2 (2)	日本	11 (2)		
北里	1 (1)	法政	3 (1)		
慶応	2 (2)	明治	10 (6)		
国際学院	2 (1)			合計	235 173

ここ2、3年の動向 (現役)

	平成16年	平成15年	平成14年	平成13年
センター試験出席率	80.1%	74.6%	69.5%	56.0%
国立合格者数	46	29	31	21
国立合格者率	19.5%	10.4%	11.7%	7.2%
東北学院合格者数(実人数)	95 (59)	75 (48)	41 (31)	45 (29)
東北学院合格者率	60.2%	43.6%	35.3%	32.6%

新校長 鈴木克之氏

略歴

昭和23年 岩手県大東町生まれ。昭和45年 岩手大学教育学部を卒業し、4年間民間企業勤務を経て宮城県教員となる。佐沼高第一女子高教頭、本吉響高校長の後、本年4月より古川高校長となる。二男との4人家族で仙台市太白区に在住。

瑞宝小綬章

古内栄輝氏(中四十六)

佐川剛氏(高三)

瑞宝双光章

伊勢行雄氏(中四十五)

高橋亨氏(中四十八)(副会長)

最後にになりましたが、今後とも同窓会に対するご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

東京蛍雪賞

母校創立百周年を記念して設けられた「東京蛍雪賞」の授与式は、去る三月一日の母校卒業式時に行われましたが、本年は三浦会長が出席し、岡本雅（生徒会長）・石澤秀憲（応援団長）・高橋寿大（陸上競技）の三君に授与されました。



東京蛍雪賞を受賞して

岡本 雅

今回この東京蛍雪賞をもらうことは大変にうれしく、またとても光栄に思っています。私がこの賞を受賞することができたのも、生徒会長という役職であったということもさることながら、同級生や在校生のみんなの協力があったからだと思います。生徒会活動は執行部が様々な活動をしたとしても、みんながついてきてくれなければ意味がありません。生徒のために存在する執行部が生徒に見離され

てしまえばたちまちその理由を失ってしまうからです。

そういうわけで今回の受賞は私個人というよりも副会長以下私を支えてくれた執行部のメンバーと古高生のみならず受賞したものだと思っています。

さて、私がこの古川高校での三年間を振り返ると、とても素晴らしい貴重な時間ばかりでした。築高との伝統の定期戦、高校総体、体育祭文化祭、修学旅行など。どれもこれも印象深く楽しい思い出でした。特に築高との定期戦は在校中三戦三勝と一度も敗れることなく卒業することができたのは私達にとってとても誇りであり、特に三年生の時の定期戦で9対1という歴史的な大差で勝利し、閉会式ときに優勝カップをもらった時の気持ちはうれしくて感無量でした。

また私個人としてもハンドボール部に所属し、一年生大会三位高校総体ベスト8と十分満足できる結果を出すことができました。それもこれも仲間にも恵まれていたからだと思います。

さて、私を含め卒業生一同はこの古川高校を卒業した後はみんなバラバラの進路を取ります。私も春からは新しいスタートをするはずですが、卒業した後友人たちとはバラバラになるけれども古高での思い出はこれから先も色あせることなく輝き続けるはずだと信じています。私はまだ十八才ですがこれから先何年何十年と生きていく中で今まで以上に社会との関わりを持つことになるでしょう。人は社会との関わりを持った時、自分や他人の為、地域や日本の為、何ができるのかを考えなければなりません。そのような場面に

出会った時に古高での経験や、養われた直感、感性が生かされると思います。十人十色という諺があるように誰一人として同じ人はいません。国籍、人種、価値観、思想の違う様々な人々と触れ合うことで自分自身でできると思っています。これからの様々な分野に関心を持ち、広い視点でものを見ることが出来る人間に成りたいです。そして常に挑戦する気持ちを持ち、親や家族、友人、恩師など今まで自分を支えてくれた人々への感謝を忘れることなく自分の道を進んで行きたいと思っています。

古高応援団長として

石澤 秀憲

私は古川高校に三年間通い、たくさん思い出がありました。特に心に残っているのは、年に一度行われる伝統のある一戦、古校と築高の定期戦です。

一年生のころは定期戦がどれだけ燃えるものかわからず、半分楽しみ、半分不安で定期戦を迎えました。その時の結果は古高が負けてしまいい、とてもうれしい思いをしたことを覚えていますが、今考えてみれば、このくやしさが今日の私を応援団長にしたのかもしれない。

二年生のころ、私は応援団幹部として定期戦にのぞきました。その年は生徒はもとより生徒会、応援団は昨年の雪辱を果たそうと意気込んでいました。昨年とは違い舞台がホームの古高だったせいか快勝することができ、非常に心に残る定期戦となりました。

そして九月に私は団長を引き継ぎました。初めのころはたくさん

悩みをしてしまい、いろんなことで悩んだり、時には「団長」という役職に嫌気がさしたりしましたが、親や友達をしてたくさん先生の先生方に励まされたり支えられたことを覚えていきます。

そして三年生として、また団長としての最後の定期戦。わたしたち三年生にとっては一勝一敗だった今までに終止符をうつ一戦でした。なんとしても勝ちたい、勝ち越して卒業したいという気持ちが叶ったのか例年のない大勝で築高を下しました。この時の感動は言うことも書くこともできないくらい嬉しいものでした。

ここでは定期戦のことのみしか書けませんが、私の古高での三年間の生活はどれもみな楽しいことばかりなので書き切れる量ではありません。定期戦はもとより、体育祭や文化祭、ついでにテストなど楽しい行事ばかり（さすがにテストは楽しくはなかったけれど良い思い出）が頭の中にしかありません。私はそんな古高の応援団長でいたことに誇りを持ち、またその誇りを社会に出ても忘れないで、伝統ある古高という看板を背中に担いでこれから新たなスタートラインを踏み出したいと思っています。

陸上部員として

高橋 寿大

「陸上競技部に入学して本当に良かった。」

私は高校から本格的に陸上競技を始めた。入部当初の雰囲気といえば、トラックやウエイト器具の不足など、戸惑う点が多かった。しかし、そのような環境であったからこそ、私は陸上への熱い思いへと駆り立て

られたのだと思っている。私は、自分が全国的な活躍を遂げることを夢見て、自分の走りへの挑戦が始まった。

私はこの三年間、仲間や指導者に恵まれていたと思う。一、二年時に遊佐先生の量を重視する指導により基礎を築き、自分に適する走りのフォームや地面への接地法などを模索し、今の私の原点がある。三年時の石川先生のご指導は、量より質を基調とし、練習や試合での一本一レースの大切さを改めて感じた。また試合前に石川先生の顔を見ると、私は安堵感を覚え、レースで勝てる！高記録で走れる！ような心になつたのだ。たくさんのご指導、ご声援に支えられ、インターハイ、国体でのダブル入賞を果たすことができたのが、私の一番の個人としての思い出である。

チームとして一番印象深いのは、二年生の時の県新人大会において、4×400mリレーで東北大会出場を果たしたことである。みんなの力で得た東北大会は、個人としては比喩物にならないくらい達成感や喜びもひとしおであった。陸上部の仲間を私は誇りに思っている。

この三年間多くの合宿や試合等で多くの先生の助言や仲間との支え合い、ライバルとの競い合いの中で、人が人に与える、また与えられる影響の大きさ、人間関係の大切さを感じ、すべての人への感謝の気持ちで一杯です。

私は、進学（岩手大学）しても陸上競技を続け古高で培ったことを原点として、将来も陸上競技に携わって行きたいと思う。好きなことだから誰にも負けたくない！

古川市内四校合同新年会報告



左から 本部同窓会 清野事務局長、高橋副会長、長井副会長

このところ、参加者数の減少が懸念されておりましたが、当日が好天に恵まれたことも影響してか、昨年に引き続き二年連続で参加者増となりました。私も三十年卒のことで恐縮ですが、今回、「同窓会出席二十名」という大台に到達した年になりました。出席者が一、二名だった長い低迷時代から、門脇敏明・渡辺吉郎両幹事による長年の下支えがあったのと、岩城光将同期会会長の求心力に負うところが大きく、それに加えて卒業時の各クラス幹事の結集力が固く、同期会の延長上に同窓会があるという意識が徐々に定着し、ここ数年、卒業年次で突出した出席者数が続いております。



二宮校長

今年で十一回目を迎えました四校合同の新年会は、一月十八日(日)上野精養軒で行われました。女子高を除く三校が持ち回りで幹事を務めておりますが、今回は古工関東同窓会が幹事校として企画・運営を担当いたしました。

総会の部では、挨拶、祝辞のあと、例年「講演」を行っている後半には、「語り」の世界に入って十五年、女子高二十九卒で中新田出身の伊藤恵子さんを「舞台」にお迎えしました。演目は、山本周五郎が昭和十八年に発表した「さるすべり」から。別の題を「白石城死守」と言いますが、伊達家の家来が上杉家との戦いで白石城の死守を命じられ、その攻防に関わる若き武将夫婦の愛情物語を切々と語りあげ、会場の感動を誘ったのでした。



語り/伊藤恵子さん

懇親会では、声自慢・腕自慢(?)の「芸達者」が例年より多く、時間の経過を忘れさせてくれました。

今年度から古川商業高校は校名を「古川学園高校」に、そして来年度からは女子高も中高一貫の共学校に移行するため「古川黎明」と校名変更することになっておりますが、我が母校は共学化による校名や校歌の変更はないようです。

なお、前述の伊藤恵子さんは、去る五月八日に行われた「古川女子高校同窓会関東支部総会」において、「支部長」に就任されました。

また、来年の四校合同新年会は古川学園が幹事校ですが、平成十七年一月二十九日(土)に開催することになりました。(文責 曾根)

第11回四校合同新年会 古高出席者名簿

〔来賓〕(4名)

- 二宮 景喜 (学校長)
- 長井 弘策 (同窓会副会長 S31)

- 高橋 亨 (同窓会副会長 S23)
- 清野 千秋 (同窓会事務局長 S43)

〔会員〕(89名)

- | | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 昭9 伊藤 守治 | 昭26 遠藤 惇 | 昭28 渡邊 道雄 | 昭30 岸 康男 | 昭31 石堂十六男 | 昭35 佐々木武磨 |
| 昭18 大家 吉夫 | 佐々木達夫 | 昭29 菊地 務 | 佐々木英三 | 大石 隆一 | 高橋 詔二 |
| 加藤 茂 | 鈴木 桂吾 | 佐藤 郁郎 | 佐々木清七 | 大内 一正 | 峰岸 宗 |
| 豊嶋 紘三 | 角田 啓輔 | 佐藤 茂 | 佐藤 忠良 | 昭32 相澤 賢郎 | 昭36 菅野 俊次 |
| 渡辺 三男 | 谷地 森 税 | 佐藤 廣 | 佐藤 寿哉 | 佐藤 公哉 | 我妻幾久寿 |
| 昭19 青沼 康男 | 昭27 氏家 明朗 | 中島 五郎 | 佐藤 久 | 佐藤 満行 | 昭37 中鉢 泰平 |
| 昭20 高橋 昭典 | 太田 徹 | 早坂 清吉 | 菅原 利吉 | 野田 利美 | 昭38 佐々木恭次 |
| (44回卒) 前田浩五朗 | 今野 健 | 福富 啓祐 | 曾根 研一 | 昭33 大友 正行 | 昭39 上野 正司 |
| 昭20 森谷 侑一 | 佐藤 清勝 | 三浦 憲一 | 高橋 広 | 佐々木光一路 | 昭40 佐藤 美輝 |
| (45回卒) 横山 榮治 | 中森 高 | 昭30 相原 相 | 二階堂幸雄 | 福原 喬夫 | 昭41 菊地 務 |
| 昭21 佐々木伯兒 | 春田 紘輔 | 阿部 一彦 | 平野 武 | 山本 道也 | 昭47 小嶋 進 |
| 昭22 松本 慶蔵 | 昭28 金子 康 | 岩城 光将 | 三浦 哲夫 | 昭34 宍戸 志智 | 昭51 早坂 時男 |
| 昭24 三浦 澄能 | 小元 広悦 | 尾崎 光彦 | 横山 武 | 村上 金吾 | 昭55 亀井 明 |
| 昭25 荒井 隆 | 高橋 慎一 | 門脇喜代志 | 渡辺 吉郎 | 昭35 岩崎 光任 | 平 8 那須野宗隆 |
| 伊藤 隆俊 | 中川 裕雄 | 門脇 敏明 | 昭31 石川 勝夫 | 大澤 邦敏 | |

士 理 士 青沼康男

不動産鑑定士 (昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014
 TEL 03-3452-2004
 FAX 03-5476-8006

森谷建設株式会社

代表取締役 森谷 侑一

昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県さいたま市緑区大字大間木2395
 TEL 048-874-2610

私生活の自由花稿

私の卓球人生(その4)

26年卒 角田 啓輔

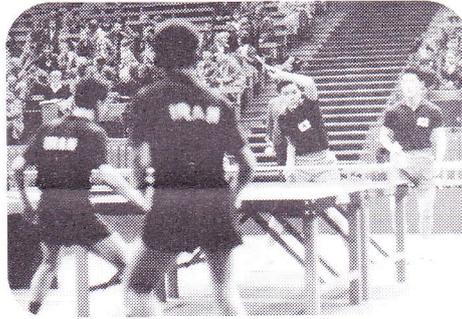
(4)日本男子四連覇を目指して
(1)一路ストックホルムへ

第二十四回世界選手権大会は、昭和三十三年三月七日から十日間、北欧スウェーデンのストックホルムで開催される事に決定していた。日本代表選手の発表は正月明けに行われた。幸い前年度に引き続き今回も日本代表男子四名の中に選ばれた。荻村、田中、角田のメンバーは不変で、富田が選考から漏れて、代わりに宮田(中大で私のダブルスのパートナー)と入れ替わった。

日本代表選手団は、南团长、程塚監督、選手男女八名、計十名で構成され、結団式の後数回の合宿訓練を経て、二月二十七日十時二〇分羽田空港から一路ストックホルムを目指して飛び立った。機はSAS(スカンジナビア空港)で、当時開拓された北極廻りの二番機で、南廻りより十八時間も早く到着するとの事だった。途中アラスカのアンカレッジ空港で二時間ほど休憩して、機は再び第二の休憩地コペンハーゲンを目指して飛び立つ。約八時間四分後北極の真上にさしかかる。その後コペンハーゲンで小休止し、最終目的地のストックホルム到着は日本時間二十八日十八時四十五分だった。途中の休憩時間も合わせて約三十二時間半の長旅だった。

(口)第二十四回世界選手権大会

世界選手権は七種目あり(男女団体、男女シングル、男女ダブルス、混合ダブルス)。十日間の大会期間中、前半の五日間はメインの男女団体戦に充てられ、後半五日間は個人種目に充てられる。団体戦は四ブロックに分かれてリーグ戦を行い、各ブロックの優勝国が決勝トーナメントに進出して、準決勝、決勝戦を経て優勝が決まる。



ダブルス4回戦 角田・宮田組(対イラン戦)

我が日本男子チームは、Bブロックに組入れられた。大会初日の三月七日は開会式に引き続き、第一戦は対カナダ、第二戦はイラン、第三戦南ア。二日目は第四戦フィンランド、第五戦ポーランド。三日目第六戦フランスと対戦し、いずれも五対〇のストレートで圧勝し、快進撃を続けた。しかし第七戦の相手国ベトナムに大苦戦となった。三人が二戦づつ終了した段階での途中経過は、荻村二戦二勝、角田一勝一敗、日本のエース田中が下痢で体調をこわし、二戦二敗で試合がもつれて「三対三」のタイスコアに追い込まれた。残る七番以降三人で二勝しないと日本が負け

になる。ここで七番角田に順番が廻ってきた。相手の選手は昭和二十八年に東京で開催された第二回アジア選手権大会で、日本選手を総ナメにしてシングル・ダブルス共に優勝したマイ・ヴァン・ホア選手で、過去の対戦で角田が一度三対〇のストレートで負けている選手である。日本チーム本大会最大のピンチを迎えた。何としても負けられない一戦であり、勝つて八番の荻村で止めねば日本の四連覇は水泡に帰す。試合は始めから一本を争うシーソーゲームとなり、ついにファイナルセット十五ー十五、粘りに粘ってチャンス wait していた時に、はたせるかな絶好のチャンスボールが右端の中央部にバウンドした。すかさずありつただけの力を集中して、相手の腹部めがけて打ち込んだスマッシュが見事に決まった。十六ー十五の後、少しあせりの出た相手を観察する余裕ができた。続く八番荻村も第一セットを取られ苦戦したが、ファイナルセット接戦だったが二十一ー十八で逃げ切り、五対三で強敵ベトナムに辛勝した。残るリーグ戦最後は地元スウェーデンとの対戦である。スウェーデンの主将フェスベリーは老練で地味で目立たないが実力のある選手、彼に角田と荻村が敗れたが、田中が復調したので五対二で乗り切り、予選リーグ八戦全勝で決勝トーナメントへ勝ち進んだ。準決勝は対中国で、荻村破れて一点落とすも五対一で勝ち、決勝戦も角田が一敗したが五対一で勝ち、晴れて優勝することができた。本大会を振り返ると、我が日本チームの最大の難敵は前述のベトナムだった。優勝するまで十ヶ



対戦して五十勝七敗(荻村二敗、田中二敗、角田三敗)の成績で、ここに男子団体四連覇を達成する事が出来た。同時に女子団体も二連覇を果たした。その他日本チームは男女シングル及び混合ダブルスにも優勝し、七種目中五種目に優勝獲得し、「卓球日本」の名を高めた。私もシングルでチエコのアンドレアデスにフルセットの末敗れたが、ダブルス及び混合ダブルスで第三位に入賞する事ができた。その後ドルトムントでの第二十五回大会で男子団体は五連覇を達成するも、第二十六回北京大会では、中国の台頭著しく連続制覇の記録を阻止された。(以下次号) 男女アベック優勝した日本代表選手団(左から二人目が筆者)

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊 道雄
会長

S28年卒(鹿島台町)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北1-4-10
TEL 03-5343-5821 FAX 03-5343-5822
立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 甲府営業所 (0551-21-2046)
E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

御同輩 年取ったね、達者でね

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009



第三回 ぎやろっば会
東京九段北 中国飯店 特別貴賓室

”観桜“を楽しむ 第3回ぎやろっば会 24年卒 門脇 健

靖国神社・千鳥ヶ淵観桜の集い、第三回在京ぎやろっば会は、好天の四月三日、十六名が参加して開かれました。

午前十一時、集合地の中国飯店（東京・九段北）を出て、東京の開花宣言を決める靖国神社に詣でて満開の桜を眺め、戦後史博物館ともいうべき遊就館で往時を偲び、千鳥ヶ淵の花のトンネルを散策して、心ゆくまで観賞。十二時、中国飯店に再集合し、かつて総理大臣なども会食に使った円卓を囲んで中国料理を賞味しながらの懇親会。特に今回は、広島市在住の恵比寿智さんが遠路やって来て錦上花を添え、同期の桜の心情を一段と深くした次第。

冒頭、石井達郎さんの発声で校

歌合唱、次いで恵比寿さんの音頭で乾杯し、あれやこれやの昔話から現代論まで：賑やかな懇談。

調子の出て来たところで、今野敏さんのすばらしい「卓球人生余話」、菅昇さんの人間性豊かな「ポランテア元氣物語」、三浦澄能さんの母校卒業式に出席しての「びっくりした」「現代学生気質：」などの十分間スピーチに耳を傾け、質疑応答も：。

また、佐藤欽一さんからは古川等の同期生の消息や活躍、一市六町の大合併による来年三月の「大崎市誕生などの近況が報告され、これらも話題となって楽しいひととき：。

午後二時五十分、早坂揆男さんと半田慶男さんのタクト？で、凶南歌「船形おろしの雪消えて：」と故郷「うさぎ追いし：」を高吟し、「健康を祈念し、再会を約して」の齊藤弘さんの一本締めをもって花爛漫のもとでの観桜の会は終了したのですが、名残はつきず、近くの私学会館に席を移しての二次会的な歓談と相なりました。

関東三期会の 例会開催について

26年卒 鈴木 桂吾

年に一度の開催だが、既に三十回余を数える古高関東三期会の例会が去る四月二十六日（月）午後五時から、後楽園内の料亭・涵徳亭で開催された。特別史跡の後楽園は都心にあっても騒音の届かぬ閑静地で、深山幽谷と池・滝とか花の名所がある。今、藤は盛りを過ぎたが、全山新緑に覆われ、心洗われる思いである。いつもはギリギリに来る会員達もこの日、早めに園

を散策し、往事の大名庭園を賞美していた。

参加者は、相沢清記・相原芳仁・池亀弘・遠藤惇・大友誠一・岡本昭・木村裕茂・佐々木国利・佐々木達夫・佐藤満雄・新柵亭・鈴木桂吾・角田啓輔・豊原博・中澤合是・中森高・谷地森税の各君の他に、古川から藤本秀雄君と仙台から押元作樹君が駆けつけてくれ、十九名であった。

会は合地森君（在京・会計監査）の司会で、会長代理の相沢清記君の挨拶から始まった。まず古川会役員の藤本秀雄君から古川の現状説明があり、次いで在仙会役員の押元君から秋の「三期生仙台大会」のあらましと参加要請があり、続いて小生（在京・幹事）から在京同窓会の財政状況を話し、会費の全員納入方をお願いした次第である。

この後は楽しい飲食と歓談のなか、全員が順次近況などを報告してくれたが、その度に拍手・歓声・爆笑の渦が湧いた。今も仕事を持つ者は四名ぐらいで、他は殆ど年金生活者だが、異口同音に「今が一番楽しいし、幸せである」と述べているのは嬉しいことである。

印象に残った話のひとつは中森高君で、中学三年間と高一までは一緒だったが病休で昭和二十七年卒となり、総会や四校会では四期生扱いであったが、今回入会し「こっちの方が水が合う」と言う。元の池に戻った蛙の心境であろう。次に初参加の太友誠一君から元新聞社カメラマンの苦労話があり、彼をプロと知ったカメラ持参の者は皆、彼にカメラを預けて撮ってもらっていた。

又、四年前に東京圏から熊本県・泗水町へ移って今回久し振り



後楽園 涵徳亭にて

に参加した豊原博君の、牧歌的なんびりとした生活振りを羨む声が生じりであった。次に久し振り参加の佐藤満雄君（群馬大工・名誉教授は「群馬の岩宿遺跡と宮城の贗造遺跡の話」をしたが、「宮城の遺跡は発表の時から疑問を持っていた」と言うが、さすが学者である。かくする間に宴も酣となるや校歌・応援歌の斉唱となり、七十一歳過ぎの老輩共が古高生にタイムスリップして出ない声を張り上げたが、こうして午後八時近くまで大いに飲み、食べ、唄い、久闊を叙し、楽しい一日を過ごすことができたのも健康なればこそであり、今後も毎年集まる為に三期生全員の健康を祈るや切である。かくて再会を約して和氣満々裡に散会したが、三期会役員の努力に深甚の敬意を表し、併せて遠くから参加の豊原君、藤本君、押元君には心からお礼を申し上げたい。また、例年本会に出席して、仙台の「笹かま」を全員に賞味させてくれる藤本君にお礼を申したい。

”風薫る涵徳亭や 三期会”

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社 アクアベンドジャパン 代表取締役副社長

佐々木 光一路（昭和33年卒）

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090 3202 6393

CALS/EC(公共事業支援統合情報システム)

電子納品作成支援 おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

専任スタッフ・有資格	
CALS/ECインストラクター	4名
電子化ファイリング	5名
ファイリングデザイナー	2名
文書情報管理士	5名

代表取締役会長 早坂 清吉（昭和29年卒）

お悔やみ

前在京古高同窓会長
高橋淳夫顧問の
ご逝去を悼み

副会長 春田 絃輔



高橋 淳夫氏

平成十六年四月二十八日(水) 早朝、高橋淳夫顧問が癌性腹膜炎で逝去されました。

七十九歳でした。高橋さんは伊藤会長の後を継がれ、平成十二年七月から十四年七月まで会長をされました。高橋さんは、会長としてよりも副会長としての期間が長く、伊藤会長が国会等の政務多忙であった関係で、会の運営には欠かせない貴重な副会長でした。金融業界での立派な業績を退任後は、古高同窓会活動に向けられ役員会はもとより、その他の案件にも温厚な人柄と秀れた指導力によって円滑な会の運営に尽力されました。

しかし、平成十四年会長を御退任直後胃痛が発見され、手術後の経過は順調ということでしたが、昨年末不調を訴えられておりましたところ、今回突然急変され不帰の客となりました。

西武練柳沢禅寺でのお通夜と五月一日の告別式には、三浦会長を始め大勢の同窓生の他、古女、古工、学園からも参列され故人の幅広い人徳が偲ばれました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

元在京古高同窓会副会長
多藤省徳顧問の
ご逝去を悼み

副会長 春田 絃輔

平成十五年十二月十九日(金) 十一時、多藤省徳顧問が逝去されました。

八十七歳でした。多藤顧問は、多分私の知る限りでは在京古高同窓会の一番古い役員であったと思います。昭和四十六年半田会長時代にすでに副会長をされており、反省会、慰労会はほとんど銀座「うしお荘」をお借りするようにな

るなど、会のためにひとかたならぬ御尽力をされました。また、初代事務局長故青柳さんと伊藤守治さんの三羽鳥で今日の会のスタイルを創られましたことも大きな功績といえるでしょう。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

在仙古高同窓会会長

三浦 良氏 (昭和二十四年生)

平成十六年三月二十五日胃癌のため逝去されました。七十二歳。

氏は、長年にわたり在仙古高同窓会会長として御活躍になりましたが、その間在京古高同窓会の各種行事には、仙台市議という御多忙な仕事にもかかわらず、必ず御出席なさいました。最近では、平成十五年六月の総会にもお元氣な姿で御出席になり、御祝辞を頂戴いたしましたばかりでした。

告別式は平成十六年三月二十九日、仙台市泉区清月記で、会葬者

千人余により盛大にとり行われました。在京からは、春田副会長が参列いたしました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

心よりご冥福をお祈りいたします

鈴木信男氏 (昭7年生)

平15年5月19日

佐藤尚一氏 (昭12年生)

平15年6月

西塚禮一氏 (昭14年生)

平15年7月15日

今野 健氏 (昭27年生)

平16年3月1日

齊藤満夫氏 (昭29年生)

平14年10月19日

結城康太氏 (昭35年生)

平16年1月12日

会員通信

●名簿作成時は、昭和20年卒だけは44回生と45回生に分けて表示して頂くのと解り易いです。(S20安倍善次郎) 「蜜雪」楽しみです。いつも多才な人材がいるなあと感心しております。川渡の鈴木桂吾さんは母方のいとこで50年も会っていませんが、懐かしく見ました。いつかは出席したいと思っております。(S28山田四郎)

●仙台の尚綱学院大学の学生さんたちが春休みにロス・アンゼルスに来るに際し、宮城県人会の有志でお世話することになり、わが家でも二人の学生さんを一晩だけ泊めてあげます。後輩の大場弘毅君(S39卒)のところでは三人泊まります。古高生が来るようなことがあれば、いつでも世話しますが。

(S30在米 浅野和夫)

●ホームページができて良かった!

(S33茨城大学理学部 松田隆輝)

●北京連合大学と天津理工大学の客員教授に任じられました。(S35国立筑波技術短大 大沼直紀)

HUMAN USER COMPANY
HUSER
住がい嬉ひはユーザーへ

「スカイプラット31」オープン!
110m²マンション展望ギャラリー

東京駅徒歩1分の夢展望台

SKY PLAT 31
東京駅八重洲南口31階に誕生!
OPEN 10:00 CLOSE 22:00
フリードリンクサービス・ネット検索コーナー

株式会社ヒューザー 代表取締役 小嶋 進 (古高47年生)
〒100-6231 東京都千代田区丸の内1丁目11番1号
パシフィックセンタープレイス丸の内31階
☎03-3284-0123 FAX 03-3284-0120
URL http://www.huser.co.jp E-mail: info@huser.co.jp

ICT

30年のキャリアと世界のネットワークを駆使し、個人の旅行、グループ研修、修学旅行のお手伝いをさせていただきます。～同郷の皆様、ぜひお気軽にご相談ください～

(株)インターナショナルヒューマントラベル
代表取締役社長 中鉢 泰平/鳴子出身・S37卒

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204
TEL・FAX 03-5385-3693

会員消息

☆成田博之氏 (昭和62年卒)



古高では吹奏楽部に所属し、国立音楽大学・同大学院では声楽を専攻したバリトン歌手の成田博之氏(昭和62年卒・高倉出身)は、既に、平成8年の日本音楽コンクールで第1位、平成13年の日本音楽コンクールで第3位入賞という輝かしい実績があり、4年前の四校合同新年会で行われたコンサートにも出演しましたが、昨年12月、ギリシヤのアテネで開催された「国際ミトロプーロス音楽コンクール」に世界12ヶ国、80名の参加者の中から最

高位で入賞。この入賞者記念コンサートと表彰式は、テレビによってギリシヤ国内で実況中継されました。この演奏が、アテネ・オリンピック記念芸術行事として世界初演されるオペラ「エウメニデス」のオーディションも兼ねていた為、同氏はこのオペラのアポロ役でこの7月、オリンピックの野外劇場などで出演することになりました。

☆八嶋幸彦氏 (昭和27年卒)

会員の八嶋幸彦氏が4月29日付の春の叙勲の中で、「瑞宝中綬章」を受章されました。氏は、元警察庁交通局長や警察大学校長を歴任されま

☆佐藤清勝氏 (昭和27年卒)

現在、在京古高同窓会事務局局長として会の運営に献身的に御尽力されている佐藤さんが、このたびの叙勲の中で「瑞宝小綬章」を受章されました。氏は、目黒税務署長や麻布税務署長を歴任されました。

平成16年度定時総会講演講師

斎藤 馨氏 プロフィール

(昭和24年卒 小牛田町出身)



- 昭和24年3月 古川高校卒業
昭和28年3月 東北大学工学部 精密工学科卒業
昭和29年4月 本田技研工業(株)に入社
昭和30年4月 同 設計課車体設計係
昭和31~48年 本社設計部車体設計課
昭和35年7月 (株)本田技術研究所独立
昭和36年6月 マン島TTレース125/250優勝、後 連戦連勝
昭和38年5月 主任研究員
昭和49年5月 (株)本田技術研究所 取締役
昭和54年5月 同常務取締役
昭和58年4月 朝霞東研究所長
昭和59年4月 同専務取締役
昭和62年4月 エグゼクティブ・チーフ・アドバイザー
平成 2年6月 退任 (株)本田技術研究所 社友

古高

長編アニメ映画 「ハードル」

古川市と横浜市が舞台



教育カウンセラー青木和雄氏原作による長編アニメーション映画「ハードル」のあらすじは、横浜の小学校に通う主人公の男子が、中学生になつて家庭の事情で母親の実家がある古川市の学校に転校、部活でいじめの標的になり、先生たちも目をそらすなか、子どもたちが正義を求めて立ち上がり、大人たちの世界を、そのハードルを乗り越えようとする勇気を描いた作品で、古川市が舞台となつて劇的に展開していきます。

浅野知事、さとう宗幸氏も声の出演をしており、古川の市街や田園風景なども忠実に描かれているので、ふる里を実感できるのではないでしょうか。

実はこのアニメ映画は、市民運動が発火点となつて制作されております。1秒間に24コマあるアニメの「ひとコマ製作券」を、古川市と横浜市の市民グループが1枚千円で販売し、90分12万コマのフィルム製作を応援する運動を展開しました。古川市も製作補助金を拠出、法務省人権擁護局が後援しております。

五月から順次全国で上映されますが、三月に東京で行われた試写会に招待された本会の三浦会長も、思わず感極まったそうです。既に全国紙でも紹介され話題になつておりますが、「虐待」「いじめ」という言葉がよく聞かれる昨今、「古川発のアニメ」を全国に、そして感動の輪が広がって行くのを心待ちにしたいものです。



編集後記

また五月だというのに梅雨のような空模様が続いています。この時期は連休明けで仕事を立て込んでいる場合が多いため、編集作業もシメキリに追われることになりました。

ホームページの更新を今後は月次で行ないますので、よりタイムリーな情報発信ができるかと思えます。掲示板、電子メールももっとご利用いただきたいと思えます。

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士



ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階
TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

特定非営利活動法人

日本刀剣保存会

みやの 貞司
理事長 宮野 貞司

S34年卒

〒142-0053
東京都品川区中延3-13-17
TEL・FAX 03-3782-5326